

Q. 町内会組織の維持のための施策を

A. 町内会に関する対策を検討している



ここを聞きました

- 健康づくり事業について
- 地域コミュニティ、町内会組織について

健康づくりについて

内田 超高齢化社会を迎え、高齢化しても健康に過ごすことができ... 健康づくり活動を展開している。

地域コミュニティ・町内会組織について

内田 少子高齢化、人口減少により10戸以下の町内会が43%あり、組織の維持・活動に限界が生じている。現状をどのように認識しているのか。

健康福祉部長 高梁市健康増進計画に基づき、各種検診、特定検診、保健師による家庭訪問、健康教室など母子保健から介護予防と幅広く事業を行っている。また、愛育委員、栄養委員による地域に密着した健康づくり活動を展開している。

Q. 幼稚園の預かり保育時間を30分延長できないか

A. ニーズ調査を踏まえ早急に対応する



ここを聞きました

- 全国学力・学習状況調査結果を子供たちの学力向上と学習状況改善に向けてどのように生かしていくのか
- 幼稚園の預かり保育の時間延長について
- ごみ焼却施設の現状と更新に向けた今後の方針について
- 旧「ゆ・ら・ら」と周辺施設との相乗効果を生かした神原スポーツ公園エリアの再生について

幼稚園の預かり保育時間延長について

宮田 小学校就学前の子どもの保育については、ライフスタイルの変化により幼稚園よりも保育園を選ぶ家庭が圧倒的に多い。周辺部の幼稚園では、最終の預かり時刻が午後5時30分であるため、共働き世帯では子どもを迎えに行く事が難しい。このために、やむなく保育園を選ぶというケースがある。現在の時刻から30分延長できれば地元の幼稚園に子どもを預けることができる家庭が増えると思うが対応はできないか。

健康福祉部長 現在、預かり担当職員を9名配置し、教員と預かり担当職員の時間外勤務で対応している。これには恒常的な保育士不足も影響している。今後さまざまな検討をしなければならぬ時期に入ってきたと考える。



Q. 川面・巨瀬・中井の生活福祉バス運行時間と運賃の見直しを

A. 総合的な判断の中で対応したい



ここを聞きました

- 公共交通について
- 吉備国際大学との連携について
- 高齢者対策について

公共交通について

三村 川面・巨瀬・中井地区の生活福祉バスは本格運行開始から半年を経過したが利用率が非常に低い。原因は運行時間と運賃にある。早急に見直しができないか。

三村 吉備国際大学の学生が減少している。本市は平成26年度に大学連携室を設置しているが、学生確保のために大学と連携して入学実績のある高校に向いてはどうか。

高齢者対策について

市民生活部長 この取り組みは、路線バスの利用の少ない昼間の便を見直し、広い区域を巡ることで多くの皆さんに利用いただくことを目的に始めた。過去に市街地への滞在時間の延長、医療機関や商業施設を細やかに回るルート変更を行っている。運賃については、全市的な取り組みが整った後、総合的な判断の中で見直しを図ってきたい。

吉備国際大学との連携について

三村 本市の面積は広く大半が中山間地域である。一人暮らしの高齢者も多く、安否確認は地域住民の関心事でもある。市民に密着したサービスを行っているJA、郵便局、生協との「見守り協定」を締結することは可能か。

健康福祉部長 本市でも、見守りや声掛けの協定を考えている。道路の異常、不法投棄、子供の見守りも含め包括的な協定も検討している。

Q. 空き家を市営住宅として活用しては

A. メリットデメリットをみつつ検討する



ここを聞きました

- 定住対策について
- 雇用対策について
- 教育のICT化について

公共交通中心のまちづくりを

石井 移住者が気軽に高梁での暮らしを体験できる「お試し住宅」を各地域に作ったほうがいいのかはないか。

市民生活部長 市営住宅などの公営住宅をそういったことに活用しようとするハードルがある。それをどう乗り越えていくか、検討を進めていきたい。

石井 歩いて暮らせるまちづくりは、まちのにぎわいにも重要な意味を持つ。公共交通を車に代わる中心的な移動手段として考えるべきではないか。

市長 通勤通学に関しては、人口がある程度集中してくることに伴って、公共交通の必然性は増してくると思う。そういう形のまちを作るのが、これからの公共交通を考える上で必要なことだと考えている。